

---

## 益田現地調査の目的と対象

---

### 田中大喜

2016～18年度にかけて実施した基幹研究「中世日本の地域社会における武家領主支配の研究」では、中世日本の地域社会において武家領主の支配がいかにして受容されたのかを明らかにすることを目的に掲げ、石見国の益田川・高津川下流域社会（現島根県益田市北部）を基軸事例に取り上げた。益田川・高津川下流域は、海岸部（河口域）・河川流域の平野部・中山間部といった多様な自然環境から構成されているが、益田荘と長野荘という2つの荘園が形成された中世の当該地域では、益田氏をはじめとしたさまざまな武家領主がこうした多様な自然環境に即して地域支配を展開した。本共同研究では、現地調査を通じてこれら武家領主の地域支配の多様なあり方を具体的に明らかにすることで、目的にアプローチしようと考えたのである。

現地調査では、益田川・高津川下流域に割拠した武家領主の本拠＝支配拠点の様相の究明を試み<sup>(1)</sup>た。武家領主の本拠とは、領主の屋敷を中心に、その周囲にある河川や道路、水陸交通路の結節点に設けられ地域の再生産を支えた集散地、所領内の田畠を灌漑する用水路、そして一族・祖先の極楽往生と民衆の暮らしの安穩を祈る寺社が関連づけられて形成された<sup>(2)</sup>ことから、武家領主の地域支配の特質を映し出す「鏡」ともいえるからである。現地調査にあたっては、文献史学・考古学・民俗学の学際的調査として実施した。

文献史学と民俗学による調査では、中世～近代の文献史料や絵図の調査・水利灌漑調査・現地の市民を対象とした聞き取り調査を通して、武家領主の本拠に関わる情報を収集し、それらをもとに本拠の様相の復元に取り組んだ。調査対象地は、①高津氏の本拠の長野荘高津郷（現益田市高津町）、②益田氏の長野荘における本拠の同荘飯田郷（現益田市飯田町）、③虫追氏の本拠の長野荘虫追村（現益田市虫追町）、④安富氏の本拠の長野荘安富郷（現益田市安富町）、⑤内田氏の本拠の長野荘豊田郷横田村（現益田市横田町）、⑥俣賀氏の本拠の長野荘豊田郷俣賀・須子村（現益田市本俣賀町・須子町）、⑦益田氏の益田荘における本拠の同荘益田本郷（現益田市七尾町・本町・幸町・染羽町・東町・三宅町・昭和町）、⑧乙吉氏の本拠の益田荘乙吉郷（現益田市乙吉町）、である。また、益田川・高津川の河口域には、12世紀後半までに沖手港・中須港・高津港という3つの港湾が成立しており、益田川・高津川下流域社会の物資の集散地として機能した<sup>(3)</sup>。したがって、これら3つの港湾も当該地域に割拠した武家領主の地域支配を成り立たせた重要な構成要素と捉えられることから、益田川・高津川河口域も調査対象地とした。調査成果については、田中大喜・渡邊浩貴「中世益田の武家領主本拠調査」で報告する。

考古学による調査では、益田川・高津川下流域で発掘された中世遺跡すべてを調査対象とした。すなわち、高津川流域では①浜寄・地方遺跡、②屋加田遺跡、③河成遺跡、④羽場遺跡、⑤中小

路遺跡、⑥大畑遺跡、⑦家下遺跡、⑧丸山遺跡、一方、益田川流域では⑨沖手遺跡、⑩中須西原遺跡、⑪中須東原遺跡、⑫七尾城跡、⑬三宅御土居跡、⑭専光寺脇遺跡、⑮平田遺跡、⑯上久々茂遺跡、⑰大峠遺跡、⑱酒屋原遺跡、⑲龍光遺跡、⑳下都茂原遺跡、㉑大石前遺跡、㉒大年ノ元遺跡、㉓唐干田遺跡、である。また、調査対象とした遺物は中国産陶磁器である。中国産陶磁器は日本全国の中世遺跡から出土しており、組成の違いはあるものの、これまで積み上げられてきた全国基準の分類で概ね対処できるという利点を持つ。これにより遺跡の年代を導き出すことができるほか、中世を通じた益田川・高津川下流域の物流の消長をも把握することができる。

上記の遺跡のうち、武家領主の本拠に関わる遺跡は②屋加田遺跡、⑫七尾城跡、⑬三宅御土居跡、となる。そして、これらのうちまとまった遺構と遺物が発掘されたのは、⑫七尾城跡と⑬三宅御土居跡の2つだけである。益田川・高津川下流域の武家領主の本拠に関わる遺跡の発掘調査事例は少ないわけだが、ほかの遺跡と比較することによって、武家領主の本拠に関わる遺跡の特徴を明らかにすることができるだろう。調査成果については、村木二郎・池谷初恵・小野正敏・小出麻友美・佐々木健策・鈴木康之・水澤幸一「中世益田の貿易陶磁調査」で報告する。

末尾となったが、現地調査に際しては、益田市教育委員会文化財課の木原光氏（当時）・佐伯昌俊氏・長澤和幸氏・中司健一氏・松本美紀氏にご高配を賜った。記して感謝申し上げる。

## 註

(1)——2016～18年度に実施した現地調査の概要については、『中世益田現地調査成果概報』vol.1（国立歴史民俗博物館、2017年）、『同』vol.2（国立歴史民俗博物館、2018年）、『同』vol.3（国立歴史民俗博物館、2020年）として公表しており、国立歴史民俗博物館のHPからダウンロードできる。なお、現地調査は、科学研究費補助金基盤研究（B）「西遷・北遷東国武士の社会的権力化」（研究代表者：田中大喜、課題番号：19H01313）の一環として、2019～21年度にかけて補足調査を実施しており、その成果も反映している。補足調査の日程・内容・参加者は、以下の通りである。

①日 程：2019年7月30日

内 容：玉川大学図書館所蔵「石見故事記」調査  
参加者：田中大喜・渡邊浩貴

②日 程：2019年8月2日～5日

内 容：浜田市立中央図書館所蔵「石見国由来記」調査、長野荘高津郷故地・安富郷故地・豊田郷横田村故地・同郷侯賀故地水利灌溉調査、益田市虫追町聞き取り調査、沖手遺跡出土貿易陶磁（益田市所蔵分）調査

参加者：池谷初恵・小野正敏・佐々木健策・鈴木康之・田中・水澤幸一・村木二郎・渡邊

③日 程：2019年8月21日

内 容：広島大学中央図書館所蔵「益田市地図」調査  
参加者：田中・渡邊

④日 程：2020年9月3日～5日

内 容：益田市七尾町・本町・幸町・染羽町・東町・三宅町・昭和町・高津町聞き取り調査、山口市歴史民俗資料館所蔵「長野荘関係文書写」調査

参加者：田中・土山祐之

⑤日 程：2021年9月29日～10月1日

内 容：益田荘益田本郷・乙吉郷故地水利灌溉調査、企画展示「中世武士団」貿易陶磁撮影

参加者：佐々木・田中・土山・村木

⑥日 程：2022年3月27日～28日

内 容：益田荘益田本郷故地水利灌溉調査、益田市中島町聞き取り調査

参加者：田中・土山

(2)——この点については、齋藤慎一『歴史文化ライブラリー 218 中世武士の城』（吉川弘文館、2006年）参照。

(3)——この詳細については、拙稿「中世石見国高津川・益田川河口域港湾の基礎的研究」（『国立歴史民俗博物館研究報告』223集、2021年）参照。

（国立歴史民俗博物館研究部）